

# 「省エネルギー学習会」

会議年月日 30年7月6日 時間 13:30 ~ 16:00 場所 流山市生涯学習センター(3F)

出席者 加藤、難波、高橋、下田、増永、山田、平手、新田、春田(記)  
(ホワイトボードに向かって時計回り順に記載、敬称略)

## 議 題

7月度の省エネ学習会を開催した。

1、「シンポジウム」全般について (報告:難波幸男)

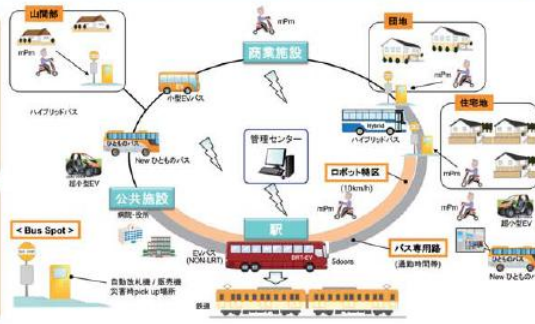
ここのところ毎回参加している。今回、下記に興味があった。

### コンパクトな多目的移動手段(マルチパーパスモビリティ)を核とする未来社会

>高齢者、身体の不自由な人、そして若者男女が安心・安全、快適に、負い目なく、格好良く利用できる移動支援機(将来ロボット化)の実現  
 >ICT技術の組合せで利用者にも介護者にも安心な見守りシステムの確立(平常時&災害時)



>人間の活動の基本となる移動を支援する  
 ・ICT技術を融合した次世代多目的モビリティを一般社会だけでなく、介護や福祉現場にも提供する  
 ・公共交通システムとの連携も考慮し、屋内外の安心の見守りシステムを世界に先がけて実現する  
 ・利用者本人の利便性ととも、利用車椅子との連結により介護者の負担も低減する  
 >外出機会の創出による健康的な社会生活と福祉社会を支援  
 >気付いたら、自動車事故・医療費の抑制と低炭素社会への貢献



2、「海は宝もの」ほか講演を聞いて (報告:山田殖保)

メタンハイグレードは、「海の宝もの」ではないのか?

図1 海域におけるメタンハイドレートの2つの賦存形態

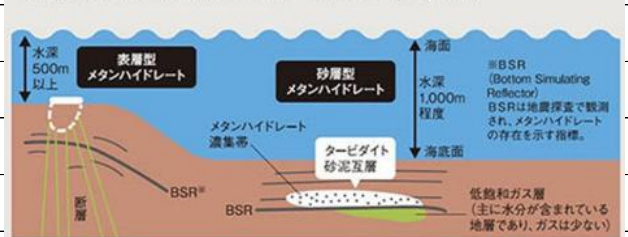


図1: 海域におけるメタンハイドレートの2つの賦存形態・出所: 経済産業省「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」2013年12月24日

3、「モノは長く使うべき? 短く使うべき?」について (報告:平手 彰)

### 環境問題における製品寿命の役割

普段の何気ない私たちの生活やライフスタイルの中にも、環境に大きな影響を与えている要素がたくさんあります。その1つに**製品寿命**があります。製品寿命とは、モノを買ってから廃棄するまでの期間の長さのことで、特に耐久消費財(自動車や家電製品)の場合、「**モノを買ってから捨てるまで何年かかるか?**」という指標です。この製品寿命によって、モノがどれくらい長く社会に留まるか、あるいはモノがどのくらいのペースで社会を循環していくかが決まり、それに伴って社会全体での資源やエネルギーの消費量やCO<sub>2</sub>排出量といった環境問題に関連する指標が推計されます。このように、製品寿命は環境問題にとって重要な役割を担っており、**製品寿命の変化は環境に大きな影響を及ぼします。**



\* 省エネ家電(LED照明、冷蔵庫など)の取替えについて考慮されていない一方的な報告であった。(平手)

4、「東アジア地域のメタン放出量を減らすには?」について(報告:春田育男)

\* 放送大学の資料で補足説明があった。

**水田における緩和技術開発に関する国際協力**

<次回予定> H30-8-3(金) 13:30~15:30 流山市生涯学習センター